

2023年3月期 第3四半期

決算補足説明資料

2023年2月9日

証券コード:3741



2023年3月期 第3四半期

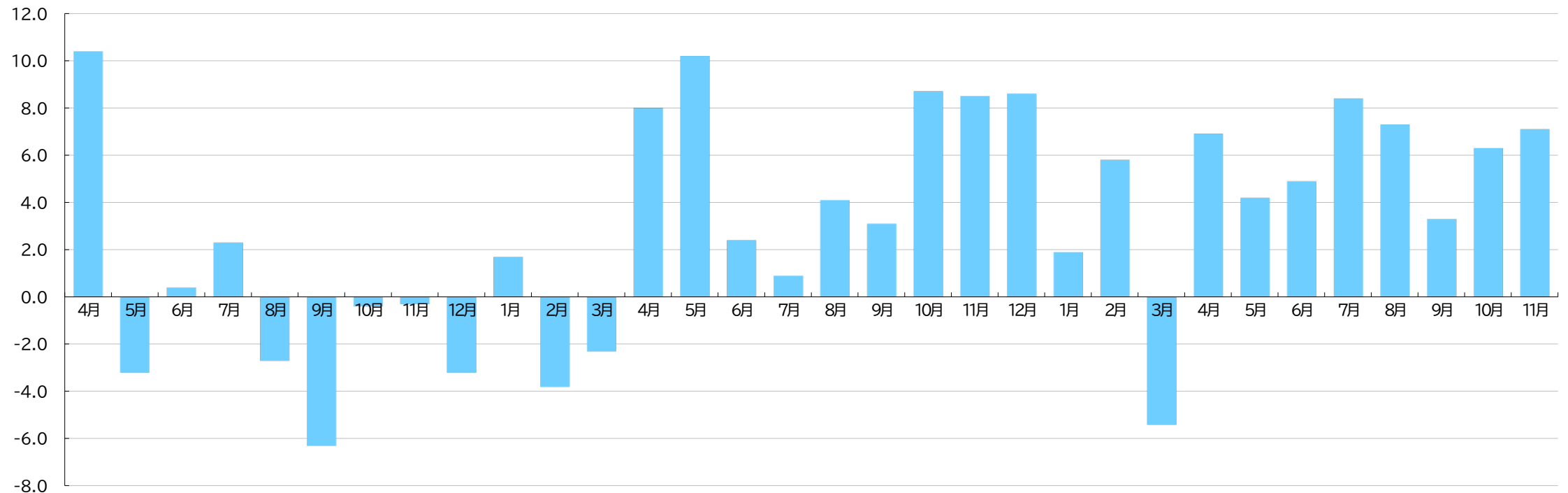
決算概要

事業環境

2023年3月期第3四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移(経済産業省:特定サービス産業動態統計)

(単位:%)



2022年4月以降の月別売上高は前年同月比で増加しており、IT需要は全体的には概ね堅調と推察される。

2023年3月期第3四半期総括

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高、前年同期比で増収増益

	当期（百万円）	前期比	利益率
売上高	5,320	+14.0%	
営業利益	819	+18.0%	15.4%
経常利益	867	+19.4%	16.3%
当期純利益	606	+19.1%	

受注高、受注残高ともに過去最高

	当期（百万円）	前期比
受注高	4,702	+4.7%
受注残高	2,579	+8.0%

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)関連の開発が大幅に増加したことに加え、宇宙天文分野や官公庁向けの開発も増加するなど、需要構造の変化に全BF最適化の視点で対応した。

売上高、営業利益、経常利益の全てで過去最高となり、増収増益となった。

受注高は前期を上回り過去最高となり、受注残高も過去最高となっている。

第3四半期損益計算書

	2022年3月期第3四半期 (百万円)	2023年3月期第3四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	4,666	5,320	114.0	—	—
売上原価	3,289	3,756	114.2	—	—
売上総利益	1,377	1,564	113.5	—	—
販売管理費	682	744	109.0	—	—
営業利益 (営業利益率)	694 (14.9%)	819 (15.4%)	118.0	—	—
経常利益 (経常利益率)	726 (15.6%)	867 (16.3%)	119.4	—	—
当期純利益	508	606	119.1	—	—

売上原価 社員数の増加などにより人件費が増加、外注費も増加（外注費 16.7億円、前年同期比21.2%増／売上高外注比率31.5%、前期29.7%）

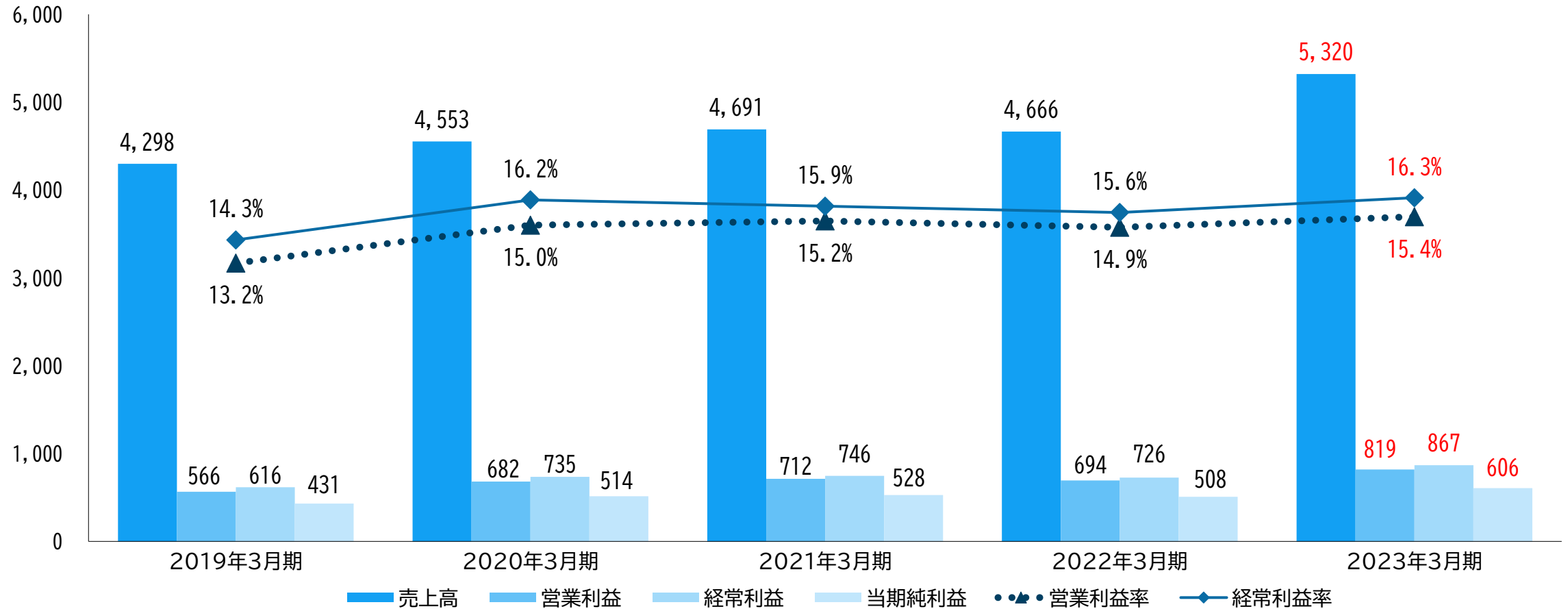
販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加、オフィス増床により家賃、費用が大幅に増加
研究開発費は48百万円で、前年同期比で8.7%増

営業外損益 研究開発の補助金収入が発生、受取出向料が大幅に増加

第3四半期決算業績推移(過去5年)

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てで過去最高

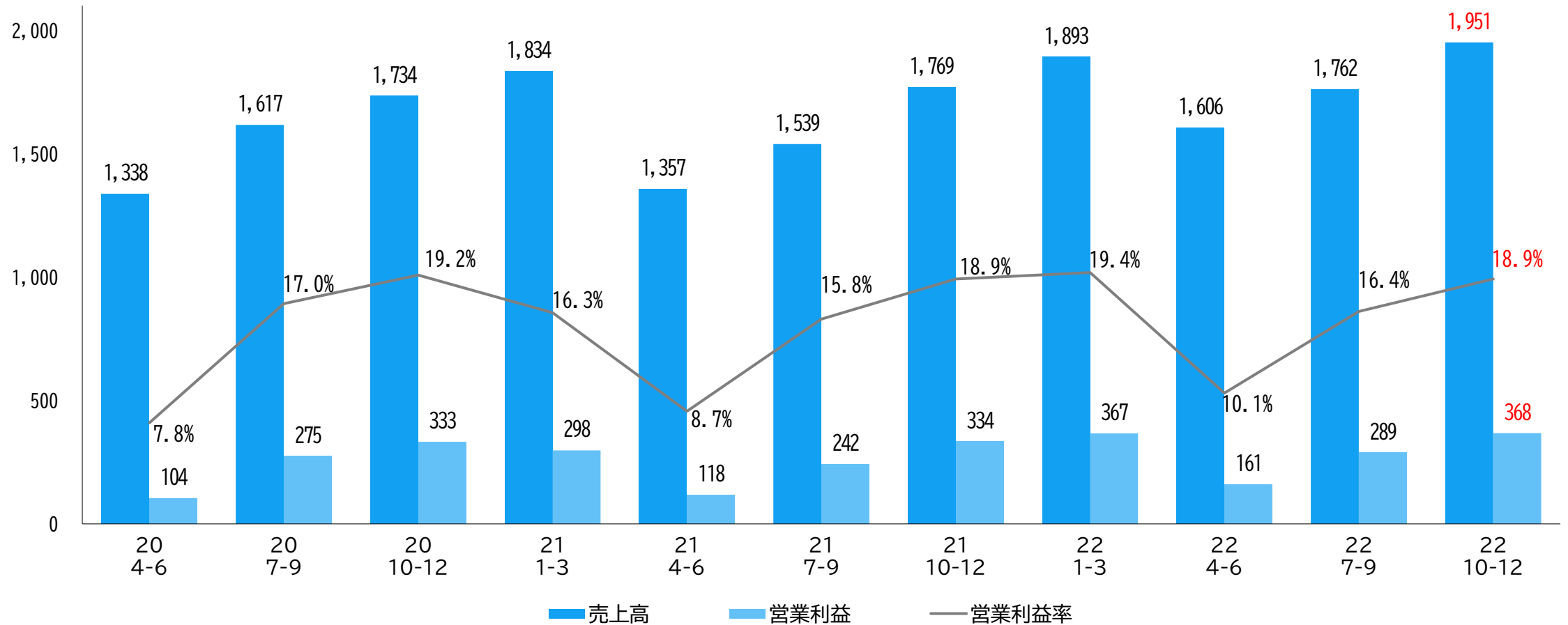
(単位:百万円)



四半期業績推移(PL)

前年度第3四半期から、5四半期連続の増収増益

(単位:百万円)

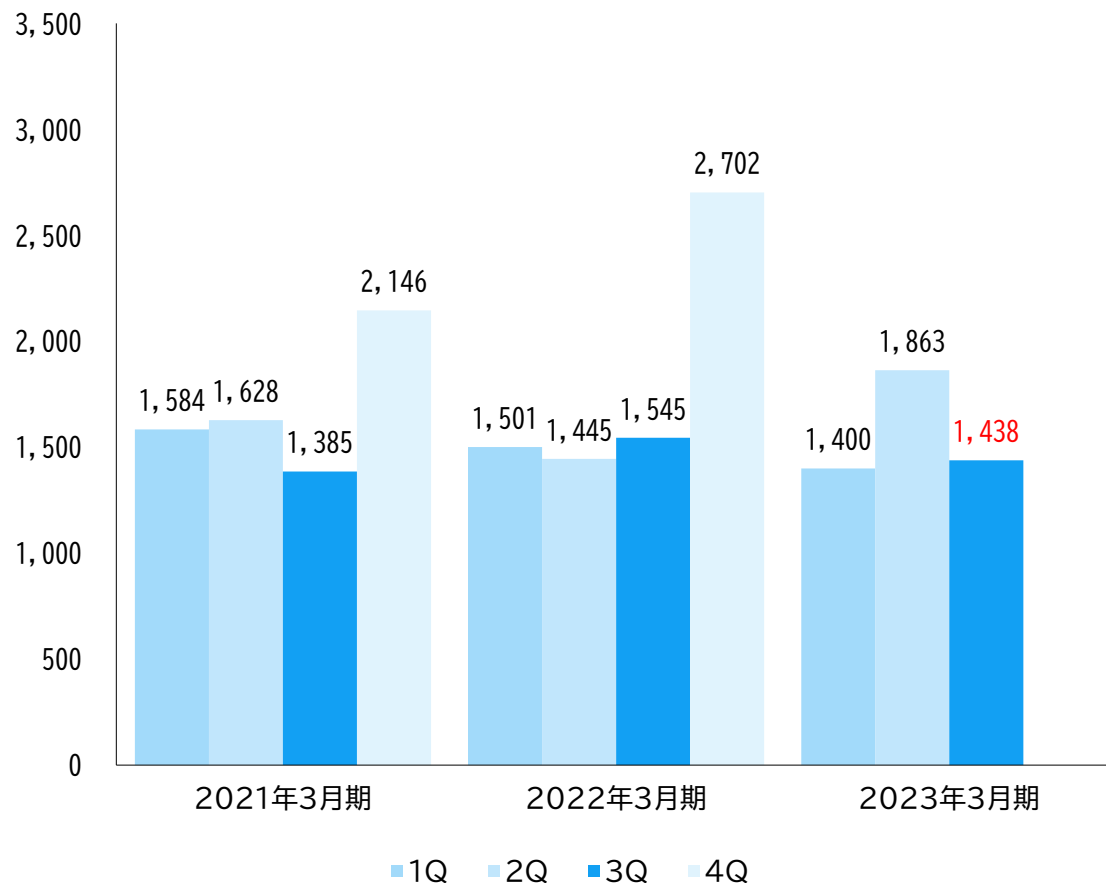


四半期業績推移(受注状況)

受注高は過去2位、受注残高は過去最高

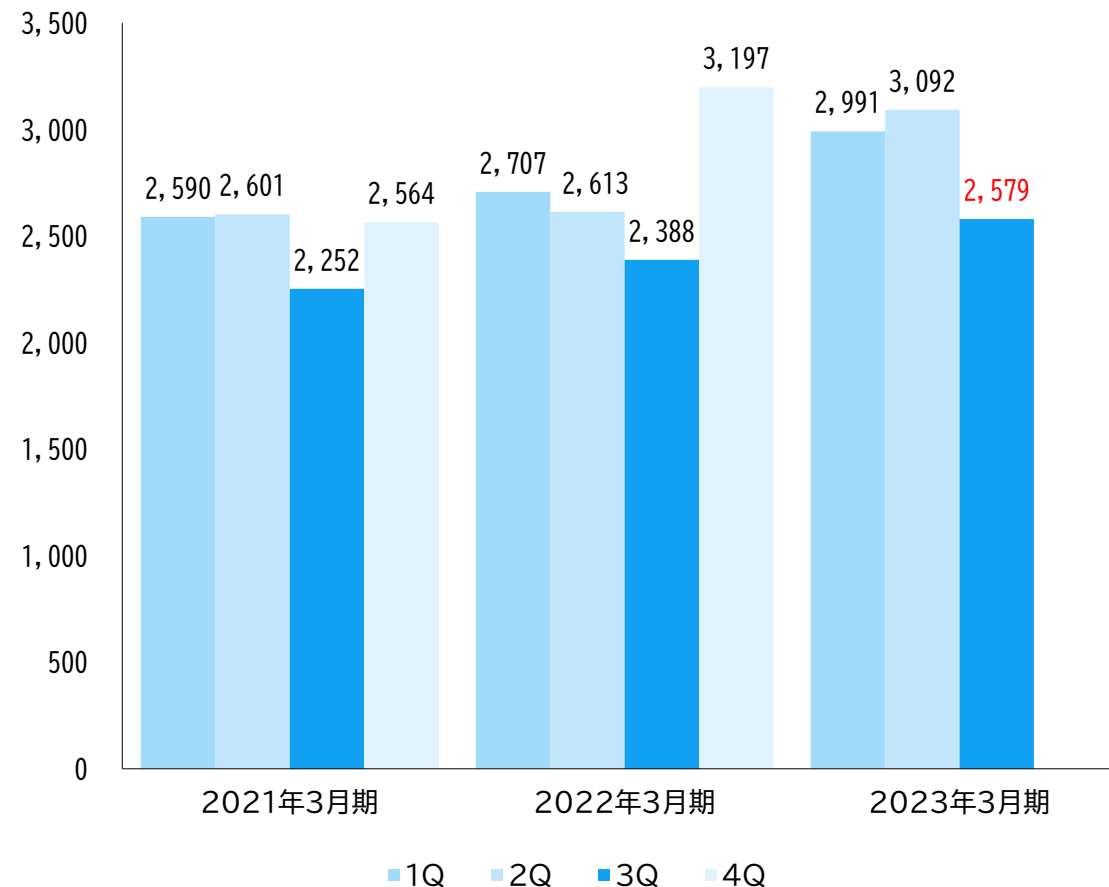
(単位:百万円)

受注高



(単位:百万円)

受注残高



第3四半期BF別の状況

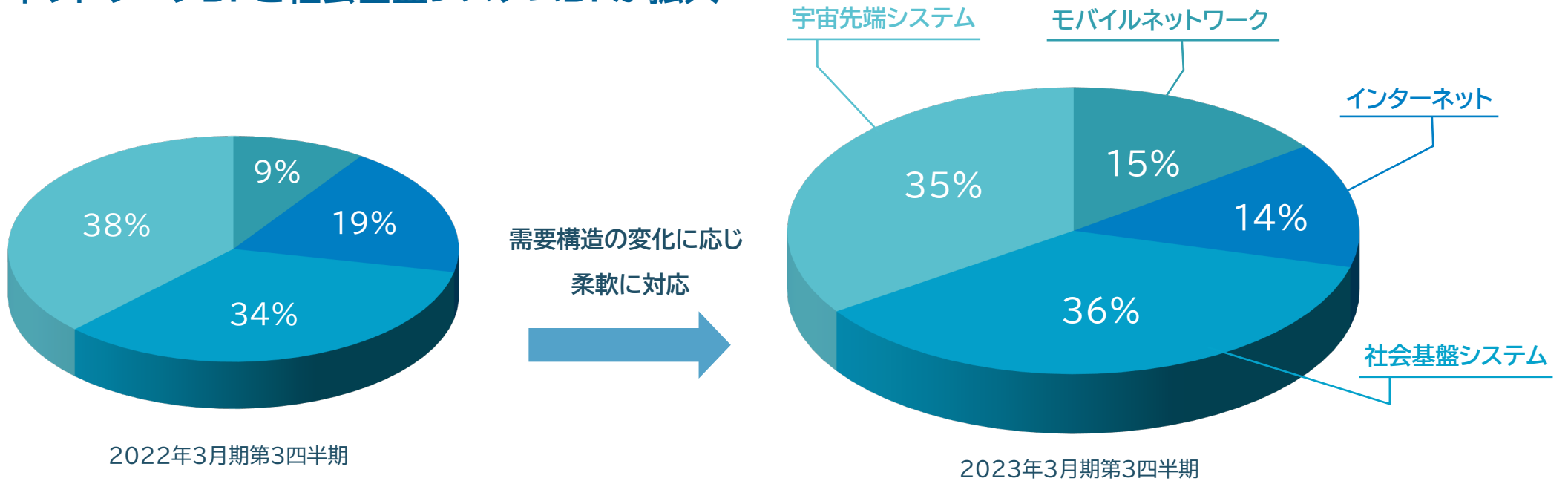
モバイルネットワークBF、社会基盤システムBFが大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第3四半期		2023年3月期第3四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	447	9.6	799	15.0	178.6
インターネット	872	18.7	749	14.1	85.9
社会基盤システム	1,589	34.1	1,935	36.4	121.8
宇宙先端システム	1,757	37.6	1,836	34.5	104.5
合計	4,666	100.0	5,320	100.0	114.0

- モバイルネットワークBFは、XR(クロスリアリティ)関連の開発など移動体通信事業者向けの開発が大幅に増加
- インターネットBFは、非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了
- 社会基盤システムBFは、官公庁向けの開発が引き続き好調
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の開発が大幅に増加

第3四半期BF別売上構成比

モバイルネットワークBFと社会基盤システムBFが拡大



モバイルネットワークBF ↑

XR(クロスリアリティ)関連の開発など移動体通信事業者向けの開発が大幅に増加

インターネットBF ↓

非接触ICを利用した開発が大幅に増加したが、民間企業向けの大型案件の開発が終了

社会基盤システムBF ↑

官公庁向けの開発が引き続き好調

宇宙先端システムBF ↓

宇宙天文分野の開発が大幅に増加し、BFの売上高は増加したが、全体構成比では減少

第3四半期BF別受注状況

モバイルネットワークBFがXR関連の受注により大幅に増加

ビジネスフィールド	2022年3月期第3四半期		2023年3月期第3四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	457	169	903	197.6	350	206.8
インターネット	809	304	734	90.7	275	90.6
社会基盤システム	1,468	1,334	1,276	86.9	1,344	100.8
宇宙先端システム	1,756	580	1,787	101.8	608	104.8
合計	4,491	2,388	4,702	104.7	2,579	108.0

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,871百万円、前期(1,536百万円)と比較し21.8%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)関連の受注が大幅に増加
- インターネットBFは、前期の民間企業向けの大型案件の反動と社内資源の配分調整により受注が減少
- 社会基盤システムBFは、前期に大型の官公庁案件を受注した反動により受注が大幅に減少
- 宇宙先端システムBFは、宇宙天文分野の受注が増加

2023年3月期

通期業績見通し

2023年3月期業績見通し

売上高、利益面ともに計画を上回る見込みであるため、1月30日に業績見通しを上方修正

	2022年3月期実績(百万円)	2023年3月期業績予想(百万円)	前期比(%)
売上高	6,560	7,300	111.3
売上原価	4,585	5,150	112.3
売上総利益	1,974	2,150	108.9
販売管理費	912	970	106.3
営業利益 (営業利益率)	1,062 (16.2%)	1,180 (16.2%)	111.1
経常利益 (経常利益率)	1,107 (16.9%)	1,240 (17.0%)	112.0
当期純利益	780	860	110.2

売上高 移動体通信事業者向けのXR(クロスリアリティ)関連の開発が大幅に増加したことに加え、宇宙天文分野や官公庁向けの開発も増加し、前期比約11%増を見込む

売上原価 社員数増加による人件費の増加、外注費の増加、イノベーション促進のための投資(増床、設備投資)により増加を見込む

販売管理費 研究開発への投資、増床による家賃の増加などを見込む

営業外損益 国の研究機関からの受託研究による補助金収入、受取出向料の増加を見込む

2023年3月期BF別業績見通し

モバイルネットワークBF、社会基盤システムBF、宇宙先端システムBFが増加する見込み

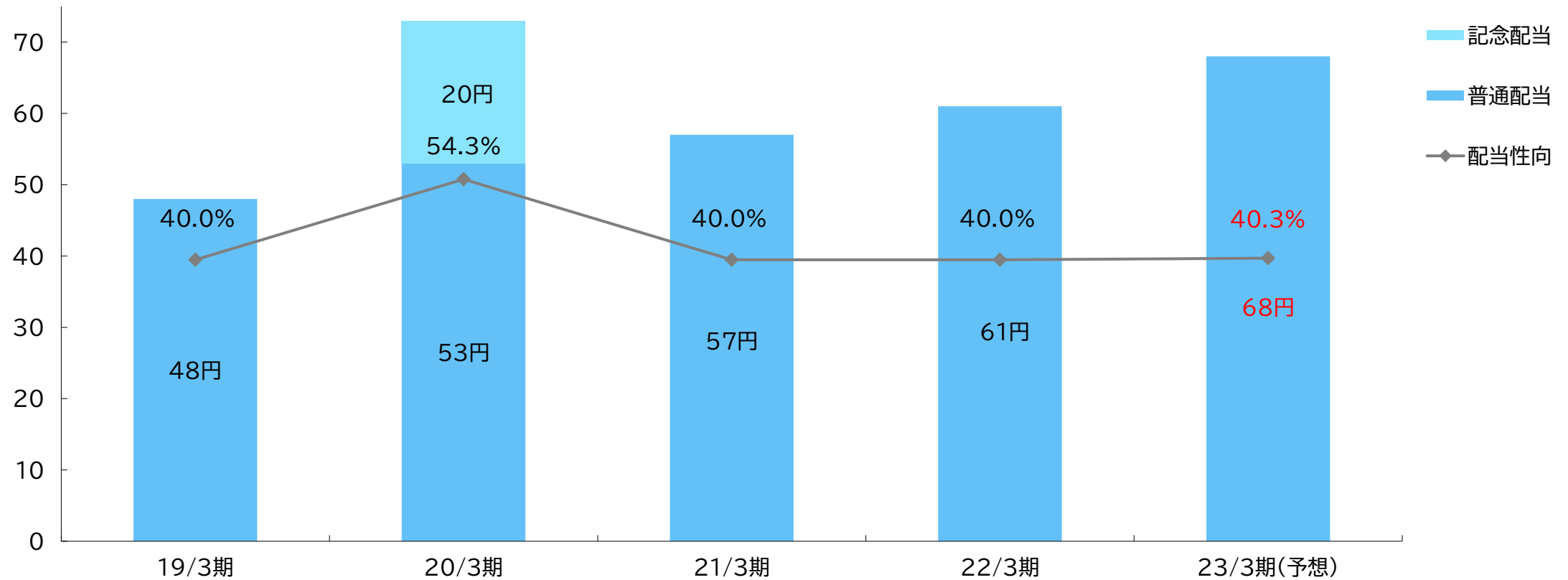
ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第3四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系などの開発が回復基調となり、増加	➡	XR関連の開発など移動体通信事業者向けの開発が大幅に増加し、想定を上回る展開	➡
インターネット	非接触ICを利用した行政の電子化に関する開発が期待できるが、他のBFとの人員配分の最適化により、減少	➡	非接触ICを利用した開発が大幅に増加したものの、民間企業向けの大型案件が終了し、ほぼ想定どおりの展開	➡
社会基盤 システム	官公庁系の開発が引き続き堅調で、増加	➡	官公庁系の開発が堅調で、ほぼ想定どおりの展開	➡
宇宙先端 システム	車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発も堅調に推移し、増加	➡	ロボットの研究開発案件が計画変動により減少したが、宇宙天文分野の開発が大幅に増加し、全体では微増を見込む	➡

配当の方針

配当性向40%を目安とし、前期比で每期増配の方針

2023年3月期は、業績見通しの上方修正に伴い、1株当たり68円の配当予想に修正。

(単位:円)



ご参考: ニュースリリース一覧(2022年8月~2023年1月)

2022年			
8月 2日	<u>アストロスケールとセック、ADRAS-Jに関するマーケティングパートナーシップを締結</u>	11月 1日	一般社団法人 スマートシティ社会実装コンソーシアムに加盟
8月17日	<u>自律移動型ロボット協働パッケージ「RTakt」(アールタクト)を発売開始</u>	11月30日	ストックボイス「東京マーケットワイド」(2022年11月30日放送)に代表取締役社長 櫻井が出演
8月17日	量子ソフトウェアコンソーシアム、小型技術刷新衛星研究開発プログラム 衛星DX研究会に加盟	12月 5日	<u>計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2022)にてMR技術とロボットアームの係に関する論文発表</u>
9月 1日	<u>「第2期 世田谷ITカレッジ」を開講</u>	12月17日	ラジオNIKKEI・プロネクサス共催「企業IR & 個人投資家応援イベント in 東京」にて企業IRセミナーを開催
9月14日	<u>東京大学とセック、建築物や都市の空間特性をリアルタイムで可視化する空間設計ソフトウェア「Convex Space Visualizer」を公開</u>	2023年	
10月11日	<u>Japan Robot Week 2022 出展</u>	1月16日	<u>ロボデックス(ロボット開発・活用展) 出展</u>
10月19日	一般社団法人量子ICTフォーラムに加盟	1月18日	日経CNBC「~攻めのIR~Market Breakthrough」(2023年1月18日放送)に代表取締役社長 櫻井が出演
10月24日	<u>宇宙科学技術連合講演会にてJAXAと共同で「きぼう」ロボットアームの運用の自動化・効率化について論文発表</u>		

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おさください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでもなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。